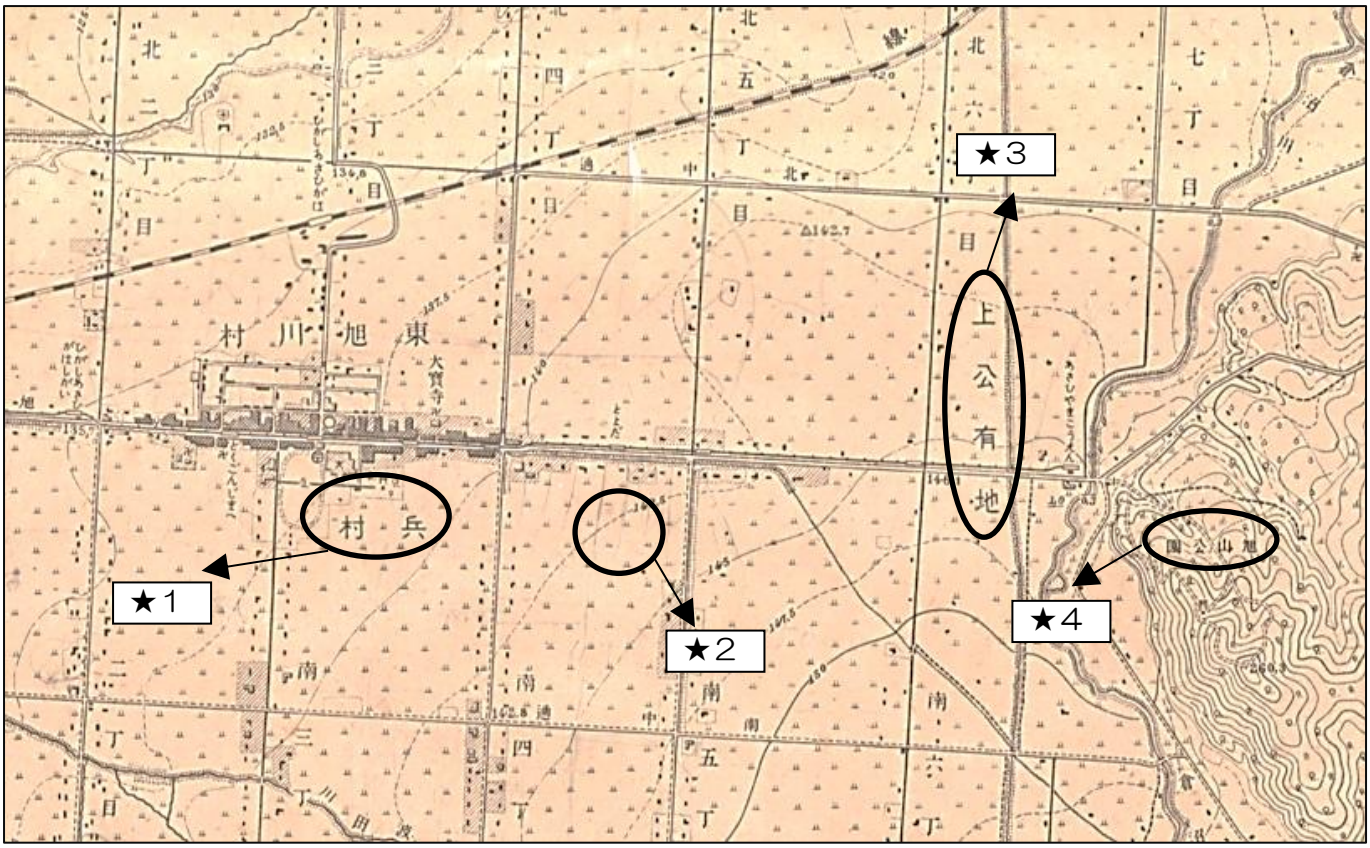
授業で使える当館所蔵地図

Ｎｏ．９０　『2万5千分の１地形図　永山』
作成年：１９４８（昭和２３）年
サイズ：４２×５２cm
作　者：地理調査所



【解説】
現旭川市東旭川町周辺の地形図である。入植当時、この地域の多くはうっそうとした原始林でおおわれ、屯田兵村に入植した人々は伐採した木々を焼却する作業から始めなければならなかった。次いで熊笹や雑草を刈り取り、それが終わって切株があちこちに立つ荒れ地を鍬で開拓し、農作物の種を播くという繰り返しであった。幸い土地は肥沃であったから作物の生育は良く、また、旭川兵村にはない物は北に位置する永山で買い求めることができたので、屯田兵村としては恵まれた条件であった。

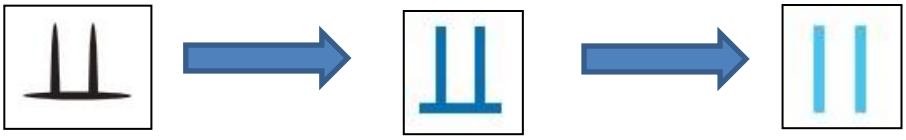
★１　兵村
屯田兵制度は、明治政府が北海道の開拓と北方警備を主な目的として、兵農両面を担う人員を北海道の各地に組織的・計画的に移住・配備していくことを内容とした制度で、黒田清隆の建議によって１８７３（明治６）年１２月２５日に制度実施が決まった。
屯田兵制度に基づき、7、337 名の屯田兵が 37 の兵村を形成し、農業や自治の面で北海道発展の礎を築いた。 人口増加を背景にした北海道における徴兵制の実施や第七師団の創設によって、屯田兵制度は１９０４（明治３７）年9月に廃止された。
旭川兵村には１８９２（明治２５）に３６４人が入植した。そのうち、上旭川兵村（東旭川村東部）には、岐阜県から８人（方県郡、大野郡、安八郡出身）、下旭川兵村（東旭川村西部）には、２人（各務郡、郡上郡出身）入植した。

★２　田（地図記号）

現在と形が異なる地図記号である。下記のように年代によって田の記号は変化している。

入植当時、上川盆地で麦作が推奨されていたが、品種改良により寒冷地に強い品種が作られ、田が広がっていった。

１８８５（明治１８）年～　１９５５（昭和３０）年～　１９６６（昭和４１）年～



★３　公有地

屯田兵は、入植すると１世帯に４．９ヘクタールの土地が支給された。公有地は、屯田兵個人ではなく、兵村に与えられた土地である。旭川兵村には１９８２（明治 25）年、約２千ヘクタールの公有地が与えられた。その後、道路や学校などが造られ、同 37（１９０４）年の屯田兵制度が廃止に伴って公有地は売却された。

★４　旭山公園

１８９８(明治３１)年、第四中隊長の菊池直人大尉が旭山に登り、旭川を見渡せる絶景を目の前にし、ここを神社と公園にすべきと唱えた。１８９９年(明治３２年)、稲の神、山城国伏見稲荷大名神の御分霊、稲魂命をまつりその後本殿、拝殿を築き開拓者たちのよりどころとなった。

１９１２(明治４５)年には、国有林であった山一帯を買収して公園となり、大正期には１、０００本の桜が植えられ、昭和初期にはスキー場も開設、電灯設備も整備され、より人々に親しまれるようになった。そして、昭和４２年日本最北の動物園「旭山動物園」が開園した。

【用語について】

・屯田兵

ロシアが１６世紀後半からシベリア侵略に手を染め、約３００年後には全土を所有するに至った。そのシベリアに屯在していたのがコサック兵であり、屯田兵制をとるものであった。シベリアは、軍事地理学的見地に北海道と同じく人口希薄の未開の土地であり、仮想敵国との接触の先端である。明治政府にとってシベリアのコサック兵の存在は、国防上の重大な脅威であると同時に、屯田兵制は北海道警備上の絶好の参考でもあった。そこで政府は１８７３（明治６）年１２月２５日に屯田兵の制度実施が決定した。

屯田兵は、西南戦争、日清戦争にも出陣した。しかし、北海道の人口が増加していき、徴兵制による兵士の確保が十分となり、屯田兵の最後の入植者が５年間の現役を終えて後備役となった時期の１９０４年（明治３７）９月には、ついに屯田兵制度が廃止された。

【利用の例】

〇屯田兵が原生林を切り開いて、今の北海道が稲作地帯になったことがわかる

→歴史的分野「明治維新」の、『東京書籍「新しい社会　歴史」P.１７９「屯田兵による開拓」』の写真資料を地形図上で確認することができる。

→屯田兵がどのような場所に移住したかわかる。

→屯田兵が、広大な面積の田を開発したことがわかる。

→旭川兵村には、計１０人の屯田兵とその家族が、岐阜県から入植していることを知る。

〇北海道での稲作について考えることができる。

→地理的分野「北海道地方」の学習で、日本有数の食料生産地になっている事実を踏まえ、江戸時代までのアイヌとの交易で、和人が米や日用品を、アイヌのさけやこんぶと交換していたことから、北海道（蝦夷地）は米作に適さない冷帯であることに気付かせ、屯田兵が品種改良行ったことなど、冷帯での食料生産の工夫を考えることができる。

〇明治時代の領土防衛が分かる。

→当時、ロシアとの間で国境問題をかかえていた政府は、蝦夷地の開拓を積極に進めたが、その中心となったのが屯田兵であった。北海道各地にこのような屯田兵が住んでいた兵村があったことを確認できる。

【参考文献など】松下芳男　著「屯田兵制史」　１９８１（昭和５６年）発行